

Fusyo Collaboration letter



2月3日 No.34 文責 廣田 秀俊

明日へ向け 学び続けること

“風の手がかりを見つけるためにふり返りをしよう”と1年生の生活科の学習が始まりました。これまでの学びから、子供たちは冬の風を利用した遊びについて、様々な実験を繰り返していました。風が来る場所を確かめ、風で動くおもちゃを頑丈にすることも行ってきました。

話を進めていく中で「こわれないようにしたい」「もっと頑丈にしたい」というみんなのふり返りが出てきました。そこで、それぞれの風で動くおもちゃについてもう一度確かめてみました。



<かざぐるま> 風を使わないといけない 風がなくてもまわる

<かざわ> あまり風を使えなかった 一つだけ動いた

<ロケット> すぐしぼんでしまう 風の方向に飛ばしたらよく飛んだ 風をよむ道具を作った
こわれてしまうことに注目し、頑丈にする方法をみんなで改めて考えてみました。

「大きさを変えたり、材料を軽くしたりすること」「風を見つける道具を使って飛ばすこと」など、みんなの意見を聞いて、さらに改良を進めていくことにしました。

『みんなが大切にしたい思い』を胸に、4年生の総合的な学習の時間の学びが始まりました。食品ロスがなるべく減るようになって欲しいと、放送で呼びかけたり、川柳で思いを伝えたり、様々な方法を行って来ました。

1月のある期間の給食残食結果を比較することにしました。4年生からの呼びかけをした週とその前の週との比較です。取組を行った後の結果から、メニューによる違いがあるかもしれないことや、調理の工夫によるものや一口チャレンジをがんばろうと紹介した影響もあるかもしれないと、分析が進んでいきました。



チェックシートを活用しながら、全校へ呼びかけ配布していくための実践を始めていきました。みんなのためであると同時に、自分たちの取組をさらに進化させていこうと、仲間の声や栄養教諭のアドバイスを聞きながら、2回目の取組へと進んでいきます。次回への見通しが明確になっていきました。



1月28日にHPに掲載した本校の研究については、この2つの授業実践による教職員の学びを紹介したものです。子供たちの経験や困り、分析等、様々な視点から、明日の授業に向けた更なる改善を図っていきながら、子供たちも教職員も学び続けています。